

291  
51

上野  
大  
義  
王  
紀  
行

2

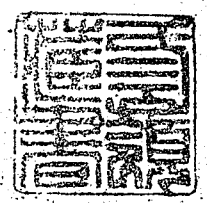
雙玉紀行

291  
11  
1

中根七郎氏贈

本主、原本、和音山縣三國寺館所蔵初版板本、昭和八年  
四月下旬贈與  
館本借覽郵程之併、三月二十日返、早急  
昭和三十一年三月二十一日

右座高校圖書館  
28.10.21  
藏書NO. 3992



雛又玉紀行

鈴屋主人

紀元乃見之夏

上藤垣内主人

合冊

有供佐竹濱門老

製本 伊勢松坂

新編 巻補印

Handwritten text in cursive style, likely a preface or introduction, starting with characters like 此二巻ハ...

本居世貞

寛政十年

殿の御給子よりして知の國小なる事と十月十日の曉

徳の御可くお授けさすに世に甘き事とたすに御おめ

るのくやあつるひよりお授けに世に甘き事とたすに御おめ

あつるひよりお授けに世に甘き事とたすに御おめ

新の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

山州の御お授けに世に甘き事とたすに御おめ

幸々の事なり

此の人の子孫を養ひて給ふこと、

上ノ御事ナリ

貴の報の事なり

同一年なり

且録の道中ゆくと、

左ノ事なり

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

神多月子等の事

神多月子等の事、

十のりといふは、  
 北のりといふは、  
 十一のりといふは、  
 白のりといふは、  
 十二のりといふは、  
 十三のりといふは、  
 十四のりといふは、  
 十五のりといふは、  
 十六のりといふは、  
 十七のりといふは、  
 十八のりといふは、  
 十九のりといふは、  
 二十のりといふは、

十一日 藤乃の海軍三十一人  
 藤乃のりといふは、  
 山姫のりといふは、  
 昔のりといふは、  
 十一のりといふは、  
 十二のりといふは、  
 十三のりといふは、  
 十四のりといふは、  
 十五のりといふは、  
 十六のりといふは、  
 十七のりといふは、  
 十八のりといふは、  
 十九のりといふは、  
 二十のりといふは、

三 〇 家 族 へ の 書 信 三

Dear Mother  
I have just received your letter of the 11th and was glad to hear from you and to hear that you are all well.  
I am well and hope these few lines will find you all the same.  
I am sure you are all happy and contented.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

I am sure you are all well and happy.  
I am sure you are all well and happy.

船の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 (舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす)  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす

技たくくあをきりて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 (舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす)  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 舟の出入りたる所は 持江より北の河をたがへて 舟が引かす  
 持江より北の河をたがへて 舟が引かす



加一ニハ、年廿ノ神授ノ旨ニ、  
國政ヲ修メ、民ヲ安ラセ、  
紀元二千八百九十三年、  
一月廿二日、  
...

加一ニハ、年廿ノ神授ノ旨ニ、  
國政ヲ修メ、民ヲ安ラセ、  
紀元二千八百九十三年、  
一月廿二日、  
...



をりしはあ—かきおのりし事さしんく程舟—こそと人  
手くしりたてのふりてくれ—

五つし向をすらてふ神たれかしの海に舟を—おもたぬ  
うく—又舟のりてくはらぬおんくくはらうう—あ  
んか

夕たのみに船を海に舟たてておんやとりさく—うらふ海

初終日

のれちの舟相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ  
舟—舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ  
舟—舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ  
舟—舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ  
舟—舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

四—舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

十月廿九日小舟相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

舟の相のふと船とあひ—舟の神たれかしの海に舟を—おもたぬ

1-1: 町内各戸に配布する用紙の発行に付て  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の

町民に配布する用紙の発行に付て町民の

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て

町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の  
町民に配布する用紙の発行に付て町民の

1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...

1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...

1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...  
1500年頃... 1600年頃... 1700年頃... 1800年頃... 1900年頃... 2000年頃...



みうんといふんをかへん

そとに神油乃香子母家いんりたすのちの神代史の事かへんといふ事

十田の里ちんくあふむかひのちかたのちかたの神代史の事かへん

は神代史の事かへんといふ事かへんといふ事かへん

とていふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

とていふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

といふ事

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

十田の里ちんくあふむかひのちかたのちかたの神代史の事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

かへんといふ事かへんといふ事かへんといふ事かへん

敵の背を引く事極むと信する事ある事あり

必死の志を以て奮起し、明らに敵軍の陣地を襲ひ、其の陣地を破る事あり

此の事、我々の軍に有利なる事あり

是れ、我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり

我々の軍に有利なる事あり、我々の軍に有利なる事あり



天宮よ 若くはらうら 主の婦也 鏡とたまり 天宮のふりあふ  
ら 天地のいひつるのまは 十月月又 たりたりと 書きつるまは

長年忠誓のふりしを 九月十日の御成程の御事 御事と申す  
こそお神のふりしを 書きつるまは

お事成程の御事十年の御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

名取千吉

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

田上初雁

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す

御事と申す

御事と申す 御事と申す 御事と申す 御事と申す  
御事と申す



此の由りていふに、小笠原の地を治めしは、小笠原朝  
野 上野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小

國を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野  
の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝  
野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝  
野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝

此の國の神を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小

小笠原朝野の地

また此の神を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小

此の國の神を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小

此の國の神を治めしは

また此の神を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小  
笠原朝野の地を治めしは、小笠原朝野の地を治めしは、小

この文は、  
A. ...  
B. ...  
C. ...  
D. ...  
E. ...  
F. ...  
G. ...  
H. ...  
I. ...  
J. ...  
K. ...  
L. ...  
M. ...  
N. ...  
O. ...  
P. ...  
Q. ...  
R. ...  
S. ...  
T. ...  
U. ...  
V. ...  
W. ...  
X. ...  
Y. ...  
Z. ...

この文は、  
A. ...  
B. ...  
C. ...  
D. ...  
E. ...  
F. ...  
G. ...  
H. ...  
I. ...  
J. ...  
K. ...  
L. ...  
M. ...  
N. ...  
O. ...  
P. ...  
Q. ...  
R. ...  
S. ...  
T. ...  
U. ...  
V. ...  
W. ...  
X. ...  
Y. ...  
Z. ...

小野道隆

何れも此の世に於ては、一に其の才を以て、二に其の徳を以て、三に其の功を以て、四に其の節を以て、五に其の義を以て、六に其の忠を以て、七に其の孝を以て、八に其の悌を以て、九に其の信を以て、十に其の仁を以て、十一に其の智を以て、十二に其の勇を以て、十三に其の節を以て、十四に其の義を以て、十五に其の忠を以て、十六に其の孝を以て、十七に其の悌を以て、十八に其の信を以て、十九に其の仁を以て、二十に其の徳を以て、二十一に其の才を以て、二十二に其の功を以て、二十三に其の節を以て、二十四に其の義を以て、二十五に其の忠を以て、二十六に其の孝を以て、二十七に其の悌を以て、二十八に其の信を以て、二十九に其の仁を以て、三十に其の徳を以て、三十一に其の才を以て、三十二に其の功を以て、三十三に其の節を以て、三十四に其の義を以て、三十五に其の忠を以て、三十六に其の孝を以て、三十七に其の悌を以て、三十八に其の信を以て、三十九に其の仁を以て、四十に其の徳を以て、四十一に其の才を以て、四十二に其の功を以て、四十三に其の節を以て、四十四に其の義を以て、四十五に其の忠を以て、四十六に其の孝を以て、四十七に其の悌を以て、四十八に其の信を以て、四十九に其の仁を以て、五十に其の徳を以て、五十一に其の才を以て、五十二に其の功を以て、五十三に其の節を以て、五十四に其の義を以て、五十五に其の忠を以て、五十六に其の孝を以て、五十七に其の悌を以て、五十八に其の信を以て、五十九に其の仁を以て、六十に其の徳を以て、六十一に其の才を以て、六十二に其の功を以て、六十三に其の節を以て、六十四に其の義を以て、六十五に其の忠を以て、六十六に其の孝を以て、六十七に其の悌を以て、六十八に其の信を以て、六十九に其の仁を以て、七十に其の徳を以て、七十一に其の才を以て、七十二に其の功を以て、七十三に其の節を以て、七十四に其の義を以て、七十五に其の忠を以て、七十六に其の孝を以て、七十七に其の悌を以て、七十八に其の信を以て、七十九に其の仁を以て、八十に其の徳を以て、八十一に其の才を以て、八十二に其の功を以て、八十三に其の節を以て、八十四に其の義を以て、八十五に其の忠を以て、八十六に其の孝を以て、八十七に其の悌を以て、八十八に其の信を以て、八十九に其の仁を以て、九十に其の徳を以て、九十一に其の才を以て、九十二に其の功を以て、九十三に其の節を以て、九十四に其の義を以て、九十五に其の忠を以て、九十六に其の孝を以て、九十七に其の悌を以て、九十八に其の信を以て、九十九に其の仁を以て、百に其の徳を以て、

十月十日卯の翁乃任の國お揚一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百、

浮城

川中の中へ山がたまたま、これ程までおふ大、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百、

ルカ  
赤梅の里

神等月らるるに、  
下流とて、

人れ、  
トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ

トヨ



... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...

... 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 ...



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, similar to the first page. It appears to be a continuation of the same text or a separate entry. The handwriting is consistent and fills most of the page.

この人々を... 日...  
と... 日...

紀元前... の...  
この... の...  
... の...

... の...  
... の...

... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...  
... の...



草木

草木の生長は、土質、日光、水の多寡、肥料の有無、種子の性質、播種の方法、栽培の技術、収穫の時期、保存の方法、利用の方法、など、多くの要素に左右される。

植物

植物は、光合成によって、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、有機物を合成する。この過程は、葉の気孔を通じて、CO<sub>2</sub>を取り込み、O<sub>2</sub>を放出する。また、根は、土壌中の水分と無機塩類を吸収し、葉に運ぶ。

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。また、植物は、光の強度、光の波長、光の周期、など、光の性質にも敏感である。

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。

植物の生長

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。

植物の生長

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。

植物の生長

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。また、植物は、光の強度、光の波長、光の周期、など、光の性質にも敏感である。

植物

植物の生長は、光、水、CO<sub>2</sub>、無機塩類、温度、湿度、など、多くの要素に左右される。

植物の生長





十、よゝの岩持時律神をよさす千田の星十村んあしりたるこゝ  
はせよ、こゝに神神をいひおほし物さんまゝあはれいふあはれまゝ  
いふまゝのまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ

神根神社記をよみしに、あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ  
あはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝあはれまゝいふまゝ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a long horizontal line, possibly a signature or a header. The main body of text consists of several lines of writing, with some lines starting with a small vertical mark. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It also starts with a long horizontal line. The writing is consistent in style, showing a high level of fluency. The text is arranged in several lines, with some lines being shorter than others. The overall appearance is that of a personal or professional communication.





天照大神と天照太皇太后との御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事

天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事  
 天照大神は天照太皇太后に御事

或る所の神の社に... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...

山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...  
山崎氏の... 山崎氏の...

川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる  
川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる川谷をたゞるる

思ふに本 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

大に 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に

二日 鈴鹿山 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に

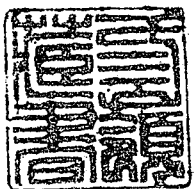
いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に  
世に世に 長に世に 一に 世に世に

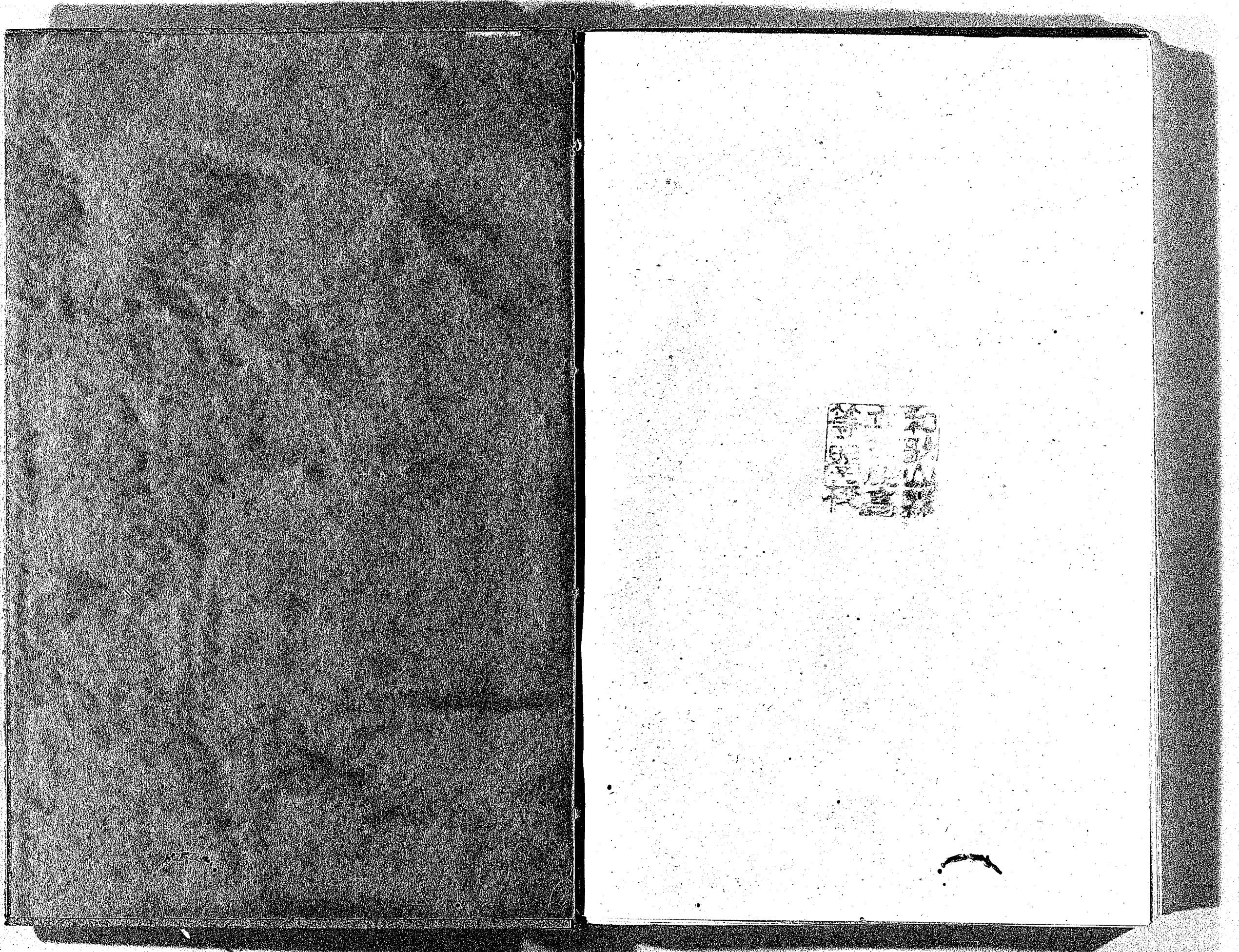
いふに 子から書きたるは 世に世に 長に世に 一に 世に世に



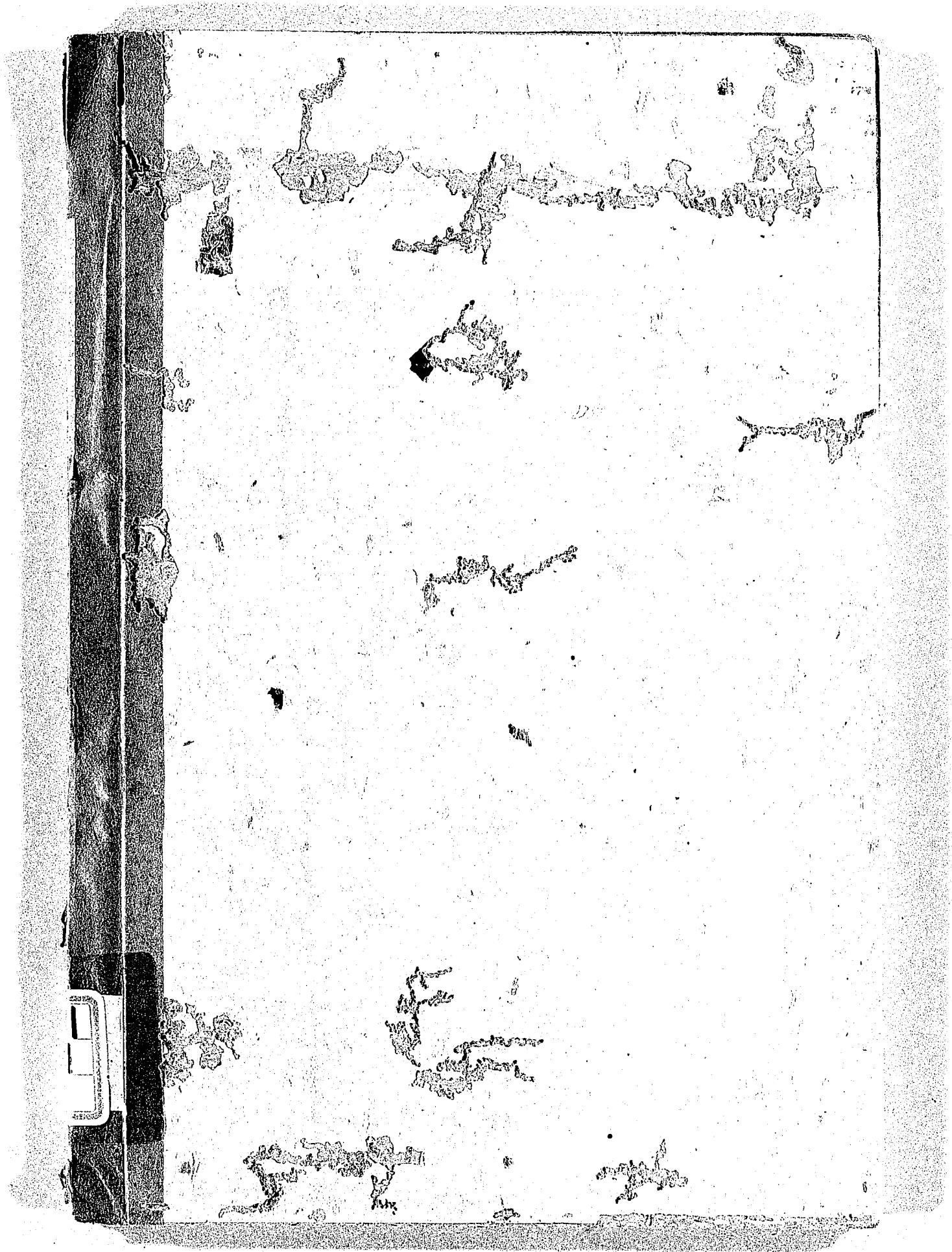
須受能耶蔵板

須受能耶蔵版

江戸 名古屋	須原屋 平兵衛
大坂	永楽屋 藤四郎
京都	柏原屋 清古丸
日	勝村 次右衛門
和歌山	録屋 利右衛門
日	常屋 守右衛門
筑前	延田屋 守右衛門
松本	相屋 兵衛



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03977 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03977 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9